

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3070103084		
法人名	社会福祉法人 安原福祉会		
事業所名	あいの里悠々		
所在地	和歌山県和歌山市松原115番地 (電 話) 073-479-5111		
評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年6月12日	評価確定日	平成20年7月18日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和 平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 18 人, 非常勤 3 人, 常勤換算15.9 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	1階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	27 名	男性 3 名	女性 24 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名
要介護3	8 名	要介護4	5 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 82.8 歳	最低 78.7 歳	最高 92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	寒川内科医院 はぶ内科医院 田川歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

和歌山市の東南部、東池のほとりに位置しており3ユニットあるホームのどの階からも望める広々とした敷地には主に実のなる樹木、栗、イチジク、やまもも等が植えられています。緑あふれる藤棚の下にはベンチも置かれ、公園のような雰囲気です。1階、2階、3階とそれぞれのユニットでは職員、入居者が話しをしたり、テレビを観たり、この仕事は必ず私がと、乾いた洗濯物をきちんとたたんで入居者の名前ごとに分けている入居者がおられたり、目の前の広大な池には水鳥、おしどり、かわう等が遊び、それをじっくり観察している入居者もおられます。入居者はこのすばらしい自然の中、職員の温かい気配りのもとで穏やかに、思い思いに過ごされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では特に大きな要改善点はありませんでしたが、評価を活かし、会議で話し合っています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価の内容を会議の議題として全員で取り組んでいます。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	同法人の3箇所のホーム合同で2ヶ月ごとに実施しています。実践報告等を積極的に行い、参加の地域包括の職員、民生委員、自治会会長と地域の行事の情報等の意見交換を行っています。また独居高齢者の対応方法など地域に向けた取り組み等各ホームはどのような交流をしていくか話し合っています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	利用者の健康状態及び生活状況等は家族の訪問時、または電話で報告を行っている。写真が掲載された悠々新聞を1~2ヶ月ごとに発行して送付しています。家族の積極的な支援で作られた家族会があり、家族の訪問時には困ったことや、不安なこと等何でも話し合えるように配慮しています。得られた意見等については会議で話し合っています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の消防訓練の参加、安原小学校との交流やヘルパー養成研修事業の実習等をおして、地域の人々と交流する機会を常に持っています。利用者が散歩、買物で外出した時など店員さんと顔馴染みになり、利用者が気軽に話できるように支援しています。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

☐ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念である「愛・信頼・笑顔」を基に”福祉の拠点として地域社会とより一層の共存を目指す”という地域密着型ホームとしての理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に掲示し、全ての職員が常に理念を意識して共有し、ケアについて迷った場合には、初心にかえり理念等を思い返し、支援を行うようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の消防訓練の参加、安原小学校との交流やヘルパー養成研修事業の実習等をおして、地域の人々と交流する機会を常にもっている。入居者が散歩、買物で外出した時など店員さんと顔馴染みになったりして、利用者が気軽に話しができるように支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の内容を会議の議題として全員で取り組んでいる。前回の外部評価では特に大きな要改善点はなかったが、評価を活かし会議で話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同法人の3箇所のホーム合同で2ヶ月ごとに実施している。実践報告等を積極的に行い、参加されている地域包括の職員、民生委員、自治会会長と地域の行事の情報等の意見交換や、独居高齢者の対応方法など各ホームとどのように交流していくか等話し合っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護の方針、トラブル、介護保険制度等、市の担当者と連携をとりサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態及び生活状況等は家族の訪問時、または電話で報告を行っている。写真が掲載されている悠々新聞を1～2ヶ月ごとに発行して送付し、金銭については、立替金制で領収書の原本を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の積極的な支援で作られた家族会があり、家族の訪問時には困ったことや、不安なこと等何でも話し合える雰囲気ができている。得られた意見等については会議で話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員間のコミュニケーションを重視し離職を防ぐとともに、その様な時には新任の職員、ベテランの職員がより協力して入居者へのダメージを最小限にし、早期に馴染みの関係ができるように配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にできる限り参加をしており、研修後は職員同士共有できるように取り組んでいる。常に自分自身が受けた介護を心掛けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や管理者間の付き合いのあるホームとは、事例検討を通して意見交換を行い、良いと思うことは取り入れながら支援をしている。	○	今後は相互訪問等の機会を持つことで、よりサービスの向上に繋がることを期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族はもちろん、本人にも見学してもらい場合によっては半日ホームで過ごしてもらい、納得して入居できるようにしている。また法人のサービスを利用している方や、地域の方を積極的に受け入れることで安心してホームで過ごせるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的な支援ではなく、入居者の方が日常生活をおくる中で「生活の知恵」を教わったり、入居者同士助け合いながら生活している。家族から頂いた梅を塩加減をはじめ漬け方そのものを教わったり、男性利用者は職員気分で職員を手助けするなど支え合いの生活が送られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方と日々の関わり合いの中で、表情や言動から想いを把握し、言い出しやすい雰囲気作りを心がけている。入居間もない方が居室から出てこれないので家族に相談すると童謡等が好きとの情報を得て、リビングでカセットテープの童謡をかけるようにすると、リビングに出てこれるようになったケースもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や、家族には日頃の会話の中や、訪問時に希望や意見を聞きケアプランに反映されている。職員間で意見交換や、モニタリング、カンファレンスをして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なカンファレンスを実施し見直しを行っている。状況の変化や急変時においても、入居者家族の要望を聞き意見交換をして新たな介護計画を作成している。状況の変化がない場合は介護計画の作り直しは基本的に年に一度となっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院は基本的には家族にお願いしているが、都合のつかない時は職員で行っている。また、個人的な買物にも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人や家族の希望を聞いている。主治医に依頼し定期的な訪問往診も支援している。受診時は職員介助で日常生活状況を主治医に話し、診察の結果を家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所側の出来ること出来ないことの説明を十分に行い、安心して納得した最後が迎えられるように、医療連携体制の基に家族等の協力を得て重度化や終末期に向けた支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけ、コミュニケーションは一人ひとりを尊重したケアを心掛けている。記録等の個人情報は外部から見えない鍵のかかるところに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思いや希望を表出できない入居者には時間をかけてその方を知ること努力し、支援が画一的にならないように、一人ひとりのペースに添って支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ちらし寿司の際は、職員が酢めしを作りかけると入居者がうちわで扇いでご飯を冷ますなどごく自然に共に食事作りを楽しんでいる。盛り付け、配膳、片付け等を職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝10時30分頃からゆっくり入浴を楽しんでいる。出来るだけ希望する時間に入浴してもらうように支援している。夜間を希望された時には状況に応じて入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔の懐かしい食べ物を職員と作ったり、畑仕事、洋裁、編み物など趣味を活かせる手助けをしている。炊事、掃除、ごみ捨て等入居者で役割を決め職員と行っている。また、今が旬の梅干し作りもされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや買物、季節の行事ごとに外出し、出きるだけ外出するようにしている。広い敷地内には実のなる木や花があり、緑の滴るような藤棚と散歩には十分な庭がある。戸外でお茶会も楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践しており、常に入居者の居場所を把握するように努めている。庭が広いので外に出て他のフロアーの職員が声をかけてくれたり、地域の人が声をかけてくれたりしながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の立会いで夜間を想定し、入居者と共に避難、火災訓練を行っている。また、スプリンクラーや火災報知機等が設置されており、各器具の点検も実施しているが地域の人々の協力を得られる働きかけが行われていない。	○	地域の協力を得る働きかけとして、積極的に実施されている運営推進会議で議題として話され、参加、見学を促されることを期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はチェックされており、水分摂取量の少ない入居者には声かけをして好みの飲み物を提供している。嚥下困難な入居者にはとろみ、ミキサー食等に対応されている。また和歌山特有の茶がゆも提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした庭にはみどりがあふれて、リビングの大きくとれた窓からは広い池が一望でき美しい風景が楽しめる空間となっている。リビングには床暖房も設置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室にはトイレがあり、入居時には馴染みの家具、小物を持ってきてもらっている。家族、本人の懐かしい写真も飾られ、カラオケの大好きな入居者はオーディオセットを持ってこられている。		